

「令和4年度全国学力・学習状況調査」結果について

1 実施概要について

(1) 調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上
- ②教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立
- ③児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に活用

(2) 調査の対象及び内容 【令和4年4月19日（火）実施】

- ①各小学校6年生及び各中学校3年生の全児童生徒が対象
- ②調査内容
 - ア. 国語、算数・数学、理科の学力調査
 - イ. 児童・生徒の学習状況等に関わる質問紙調査
 - ウ. 学校に対する質問紙調査

(3) 実施の状況（公立の実施学校数と児童生徒数）

①全国の状況

○小学校等

・国語	18,668校	965,308名
・算数	18,667校	965,431名
・理科	18,601校	965,761名

○中学校等

・国語	9,340校	891,820名
・数学	9,339校	891,913名
・理科	9,337校	892,585名

②本県の状況

○小学校等 226校（小学校221校、義務教育学校前期課程3校、特別支援学校小学部2校）

・国語	7,930名
・算数	7,929名
・理科	7,931名

○中学校等 95校（中学校90校、義務教育学校後期課程3校、特別支援学校中学部2校）

・国語	8,016名
・数学	8,019名
・理科	8,021名

2 学力調査の結果（本県における各教科の平均正答率）

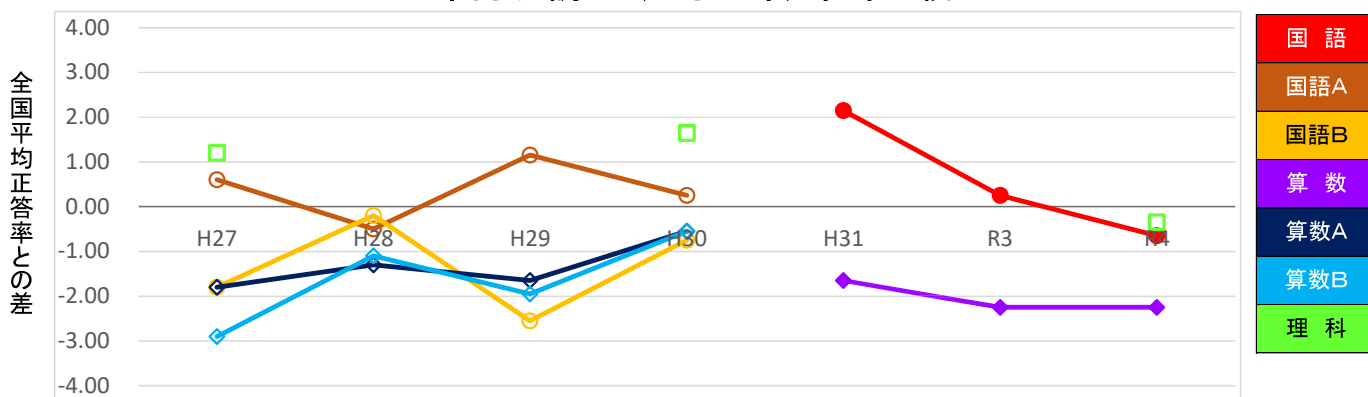
(1) 小学校6年生 ※数値は正答率%（都道府県は整数値で公表）

	山形県	全国
国語	65	65.6
算数	61	63.2
理科	63	63.3

(2) 中学校3年生 ※数値は正答率%（都道府県は整数値で公表）

	山形県	全国
国語	70	69.0
数学	52	51.4
理科	50	49.3

全国学力調査（小学6年）経年比較



	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4
国語 ●					1.7 ~ 2.6	-0.2 ~ 0.7	-1.1 ~ -0.2
○国語A	0.6	-0.5	0.7 ~ 1.6	-0.2 ~ 0.7			
○国語B	-1.8	-0.2	-3.0 ~ -2.1	-1.2 ~ -0.3			
算数 ◆					-2.1 ~ -1.2	-2.7 ~ -1.8	-2.7 ~ -1.8
◇算数A	-1.8	-1.3	-2.1 ~ -1.2	-1.0 ~ -0.1			
◇算数B	-2.9	-1.1	-2.4 ~ -1.5	-1.0 ~ -0.1			
理科 □	1.2			1.2 ~ 2.1			-0.8 ~ 0.1

※平均正答率について、全国の値は小数第1位まで示されているのに対し、都道府県の値は平成29年度から整数値で示されていることから、平成29年度以降のグラフの値は、全国との差の範囲の中間値を表示しています。

○小学校国語

A問題(主に知識に関するもの)

年度	平均正答率	全国との差
平成 27 年度	70.6	0.6
平成 28 年度	72.4	-0.5
平成 29 年度	76	0.7 ~ 1.6
平成 30 年度	71	-0.2 ~ 0.7

B問題(主に活用に関するもの)

年度	平均正答率	全国との差
平成 27 年度	63.6	-1.8
平成 28 年度	57.6	-0.2
平成 29 年度	55	-3.0 ~ -2.1
平成 30 年度	54	-1.2 ~ -0.3

※AB一本化

平成 31 年度	66	1.7 ~ 2.6
令和 3 年度	65	-0.2 ~ 0.7
令和 4 年度	65	-1.1 ~ -0.2

○小学校算数

A問題(主に知識に関するもの)

年度	平均正答率	全国との差
平成 27 年度	73.4	-1.8
平成 28 年度	76.3	-1.3
平成 29 年度	77	-2.1 ~ -1.2
平成 30 年度	63	-1.0 ~ -0.1

B問題(主に活用に関するもの)

年度	平均正答率	全国との差
平成 27 年度	42.1	-2.9
平成 28 年度	46.1	-1.1
平成 29 年度	44	-2.4 ~ -1.5
平成 30 年度	51	-1.0 ~ -0.1

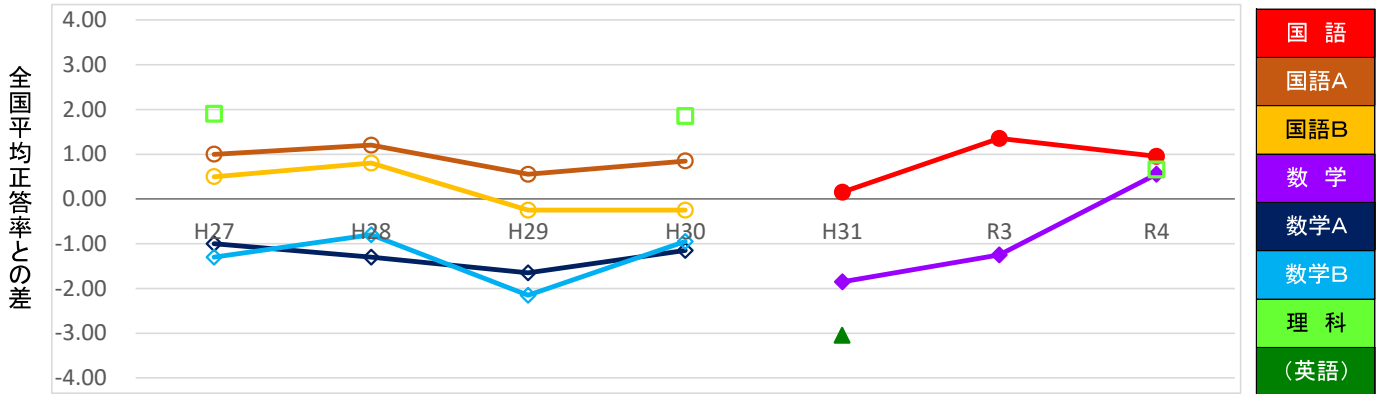
※AB一本化

平成 31 年度	65	-2.1 ~ -1.2
令和 3 年度	68	-2.7 ~ -1.8
令和 4 年度	61	-2.7 ~ -1.8

○小学校理科

年度	平均正答率	全国との差
平成 27 年度	62.0	1.2
平成 30 年度	62	1.2 ~ 2.1
令和 4 年度	63	-0.8 ~ 0.1

全国学力調査（中学3年）経年比較



	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4
国語 ●					-0.3 ~ 0.6	0.9 ~ 1.8	0.5 ~ 1.4
○国語A	1.0	1.2	0.1 ~ 1.0	0.4 ~ 1.3			
○国語B	0.5	0.8	-0.7 ~ 0.2	-0.7 ~ 0.2			
数学 ◆					-2.3 ~ -1.4	-1.7 ~ -0.8	0.1 ~ 1.0
◇数学A	-1.0	-1.3	-2.1 ~ -1.2	-1.6 ~ -0.7			
◇数学B	-1.3	-0.8	-2.6 ~ -1.7	-1.4 ~ -0.5			
理科 □	1.9			1.4 ~ 2.3			0.2 ~ 1.1
(英語) ▲					-3.5 ~ -2.6		

※平均正答率について、全国の値は小数第1位まで示されているのに対し、都道府県の値は平成29年度から整数値で示されていることから、平成29年度以降のグラフの値は、全国との差の範囲の中間値を表示しています。

○中学校国語

A問題(主に知識に関するもの)

年度	平均正答率	全国との差
平成 27 年度	76.8	1.0
平成 28 年度	76.8	1.2
平成 29 年度	78	0.1 ~ 1.0
平成 30 年度	77	0.4 ~ 1.3

B問題(主に活用に関するもの)

年度	平均正答率	全国との差
平成 27 年度	66.3	0.5
平成 28 年度	67.3	0.8
平成 29 年度	72	-0.7 ~ 0.2
平成 30 年度	61	-0.7 ~ 0.2

※AB一本化

平成 31 年度	73	-0.3 ~ 0.6
令和 3 年度	66	0.9 ~ 1.8
令和 4 年度	70	0.5 ~ 1.4

○中学校数学

A問題(主に知識に関するもの)

年度	平均正答率	全国との差
平成 27 年度	63.4	-1.0
平成 28 年度	60.9	-1.3
平成 29 年度	63	-2.1 ~ -1.2
平成 30 年度	65	-1.6 ~ -0.7

B問題(主に活用に関するもの)

年度	平均正答率	全国との差
平成 27 年度	40.3	-1.3
平成 28 年度	43.3	-0.8
平成 29 年度	46	-2.6 ~ -1.7
平成 30 年度	46	-1.4 ~ -0.5

※AB一本化

平成 31 年度	58	-2.3 ~ -1.4
令和 3 年度	56	-1.7 ~ -0.8
令和 4 年度	52	0.1 ~ 1.0

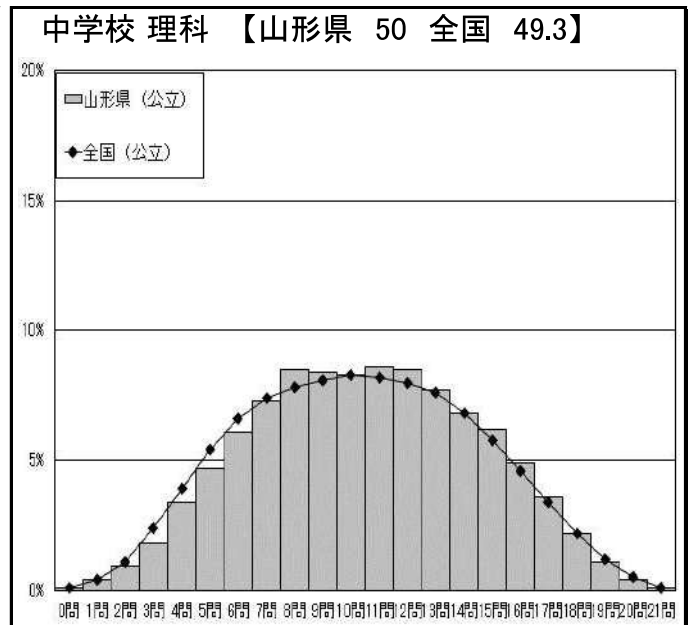
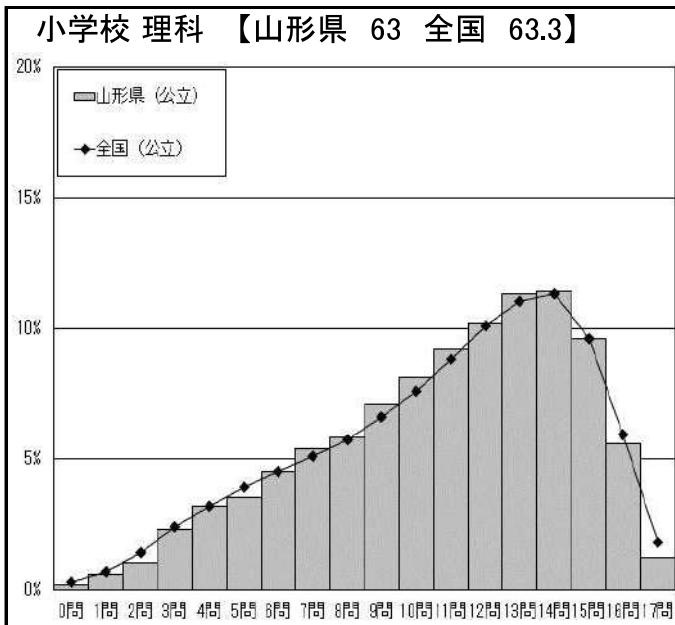
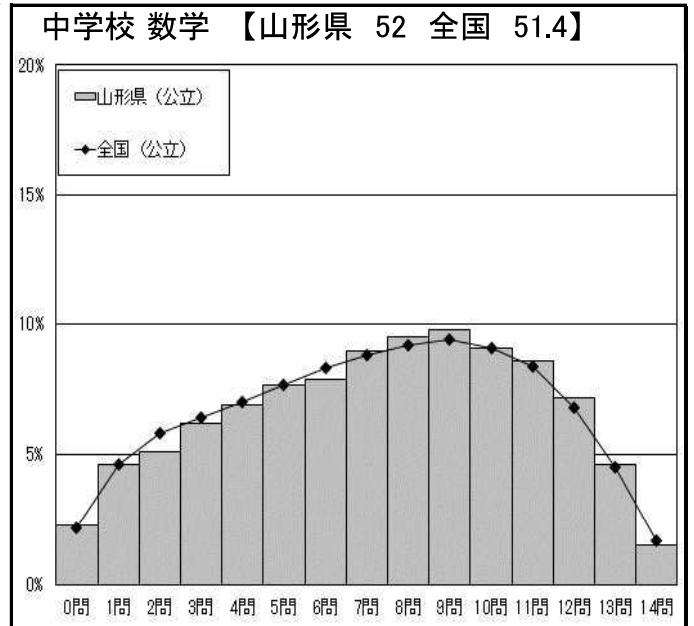
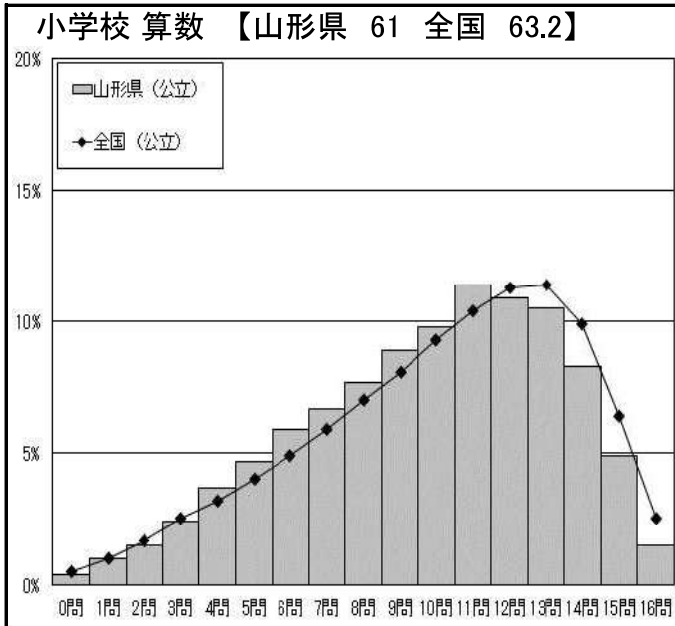
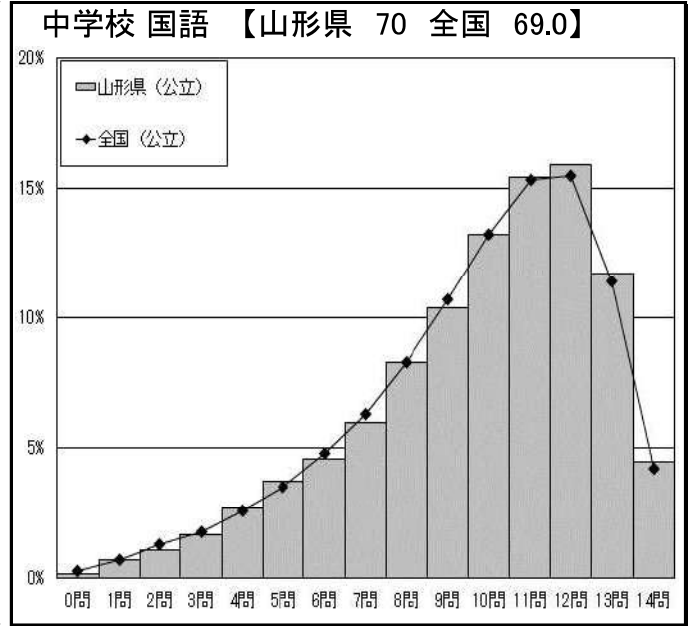
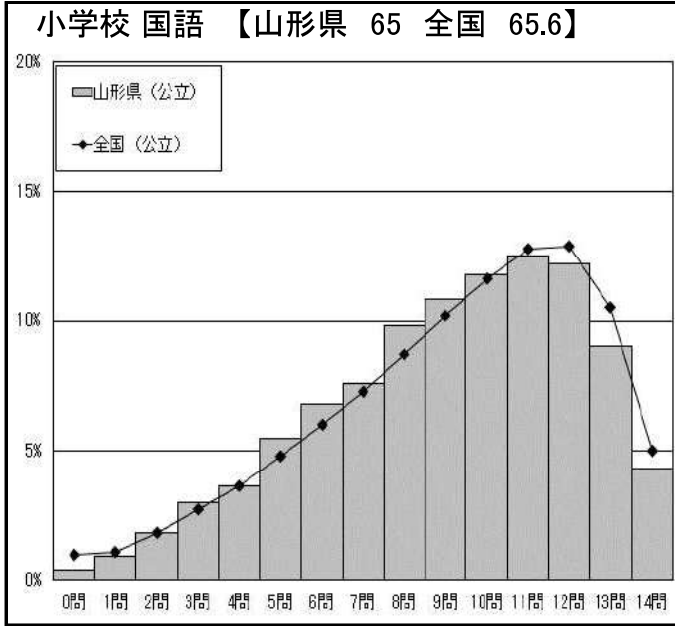
○中学校理科

年度	平均正答率	全国との差
平成 27 年度	54.9	1.9
平成 30 年度	68	1.4 ~ 2.3
令和 4 年度	50	0.2 ~ 1.1

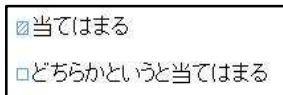
○中学校英語

年度	平均正答率	全国との差
平成 31 年度	53	-3.5 ~ -2.6

1 学力調査の結果（教科の平均正答率及び正答数分布グラフ）本県と全国との比較

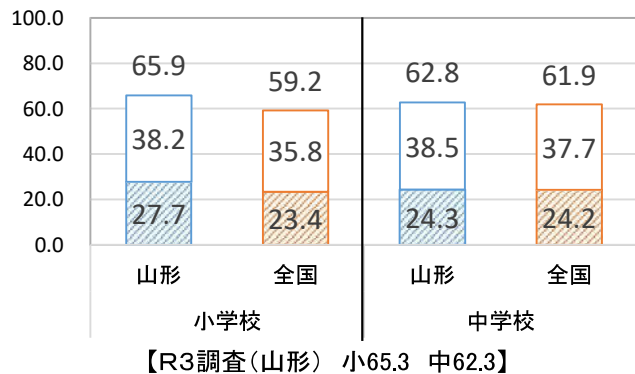


2 学習状況調査の結果から

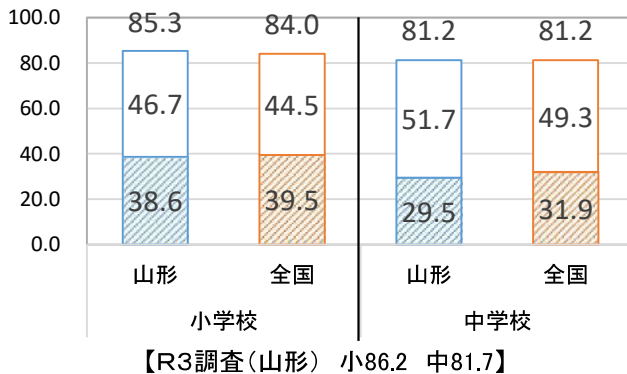


(1) 教科に関すること

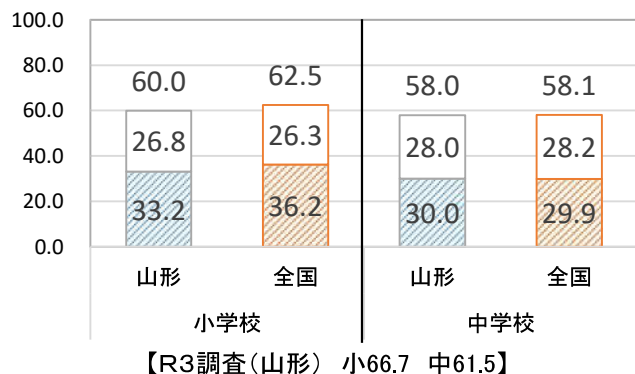
国語の勉強は好きだ



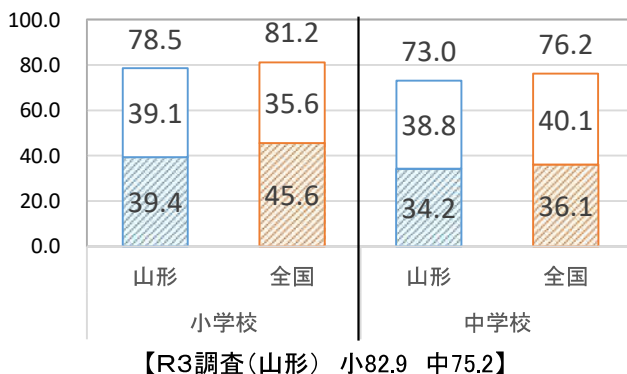
国語の授業の内容はよく分かる



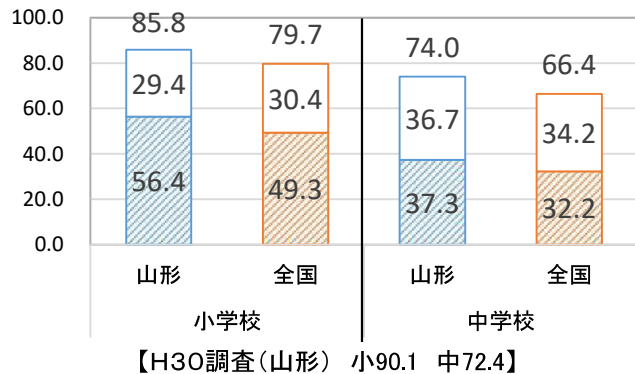
算数【数学】の勉強は好きだ



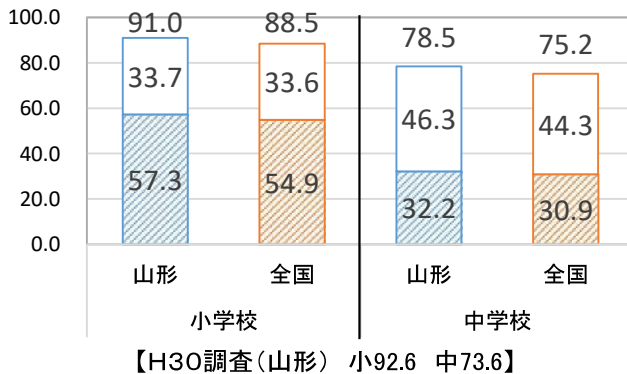
算数【数学】の授業の内容はよく分かる



理科の勉強は好きだ

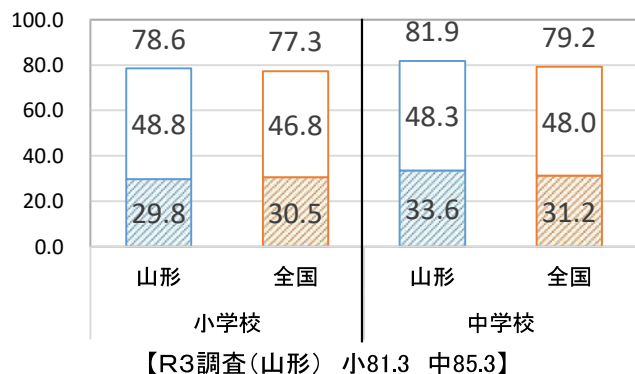


理科の授業の内容はよく分かる

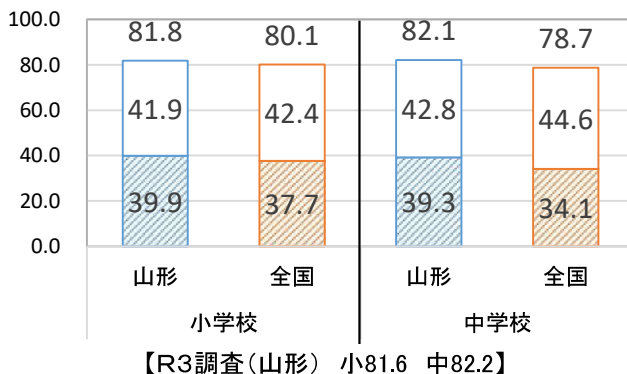


(2) 授業や学習等に関すること

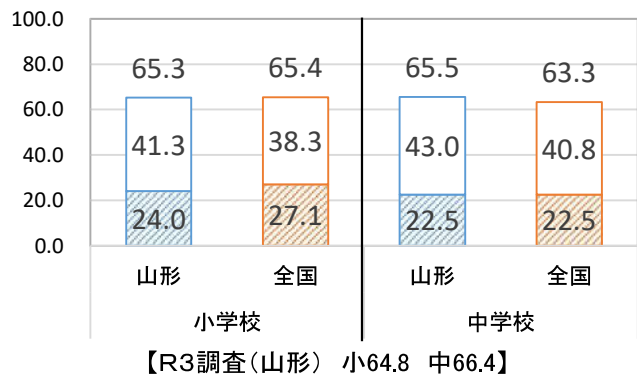
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



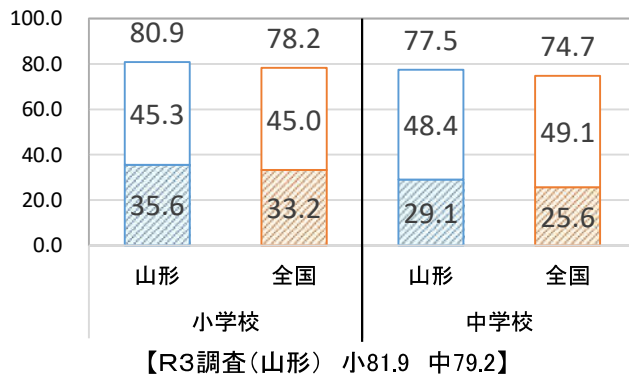
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



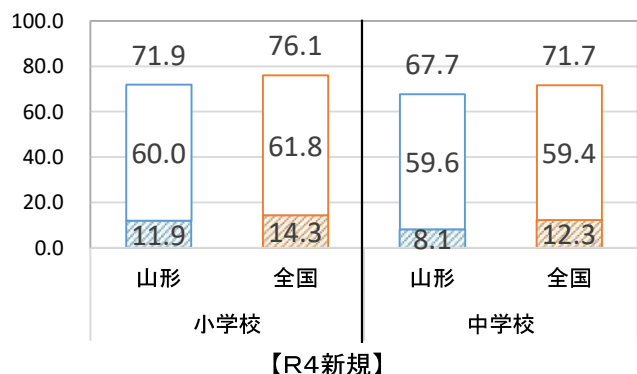
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していた



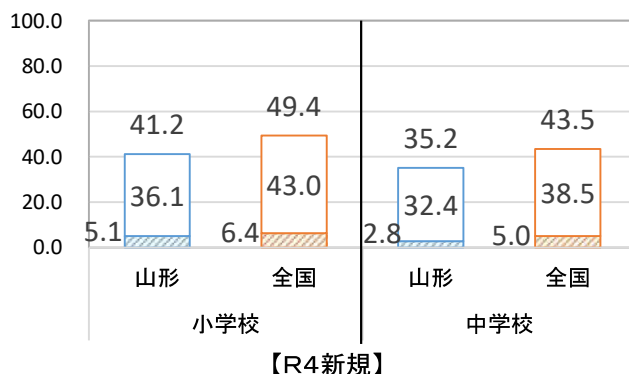
学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている



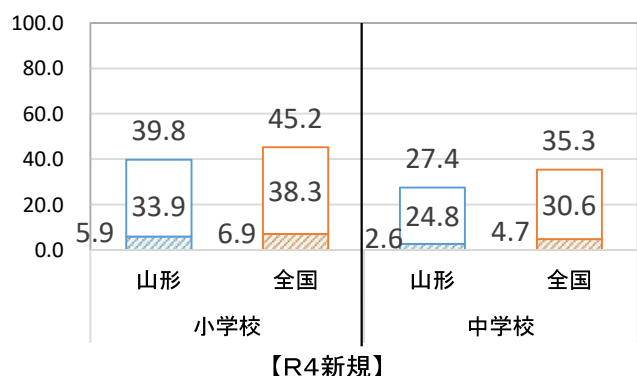
学校で、授業中に自分で調べる場面で、週1回以上PC・タブレットなどのICT機器を使っている(インターネット検索など)



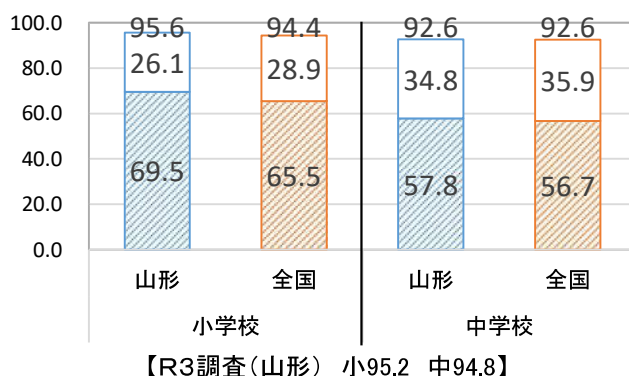
学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、週1回以上PC・タブレットなどのICT機器を使っている



学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、週1回以上PC・タブレットなどのICT機器を使っている

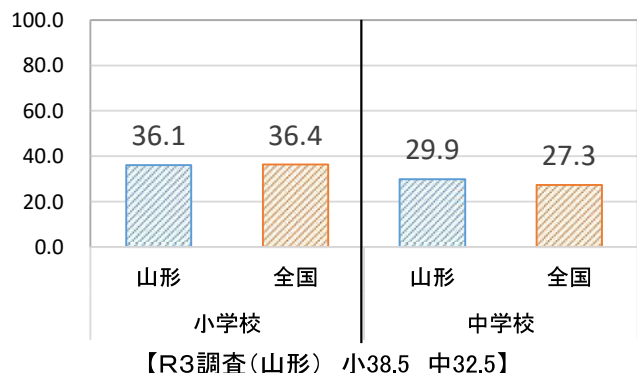


学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う

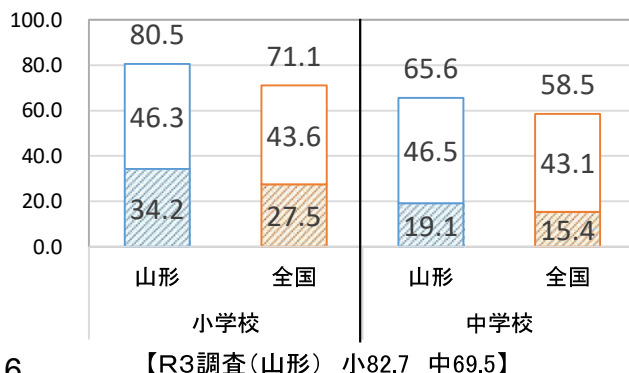


(3) 家庭生活に関わること

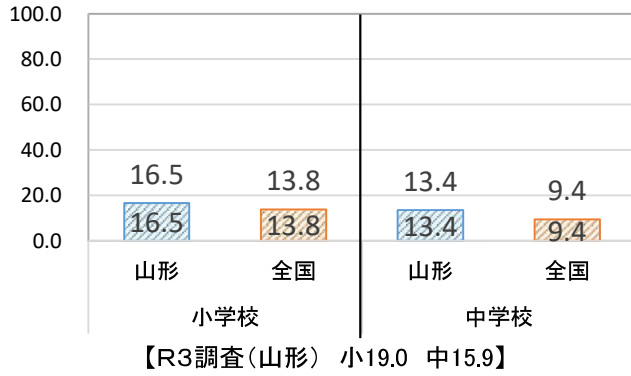
1日30分以上読書をしている



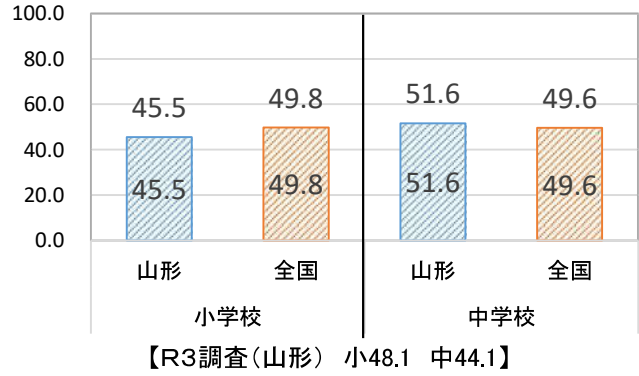
家で自分で計画を立てて勉強をしている



週1回以上新聞を読んでいる

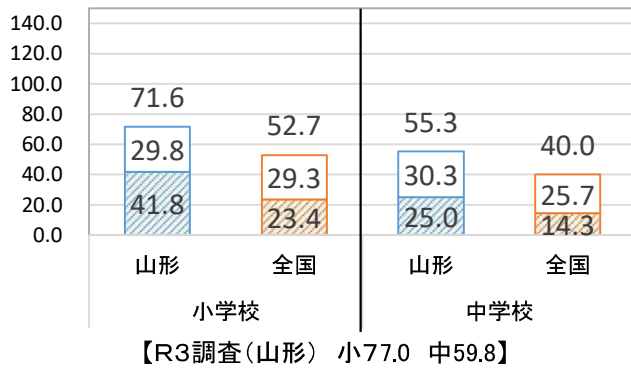


普段、1日当たりテレビゲームをする時間は2時間未満である

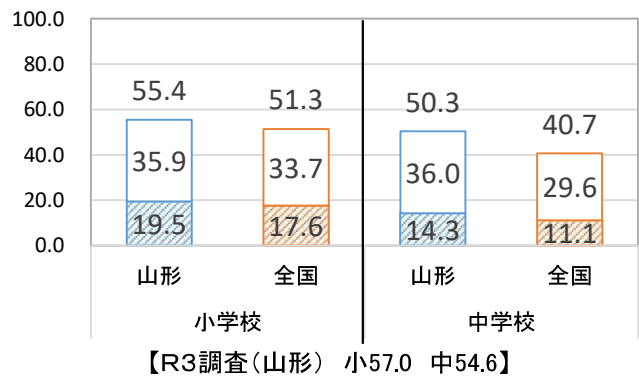


(4) 地域に関わること

地域の行事に参加している

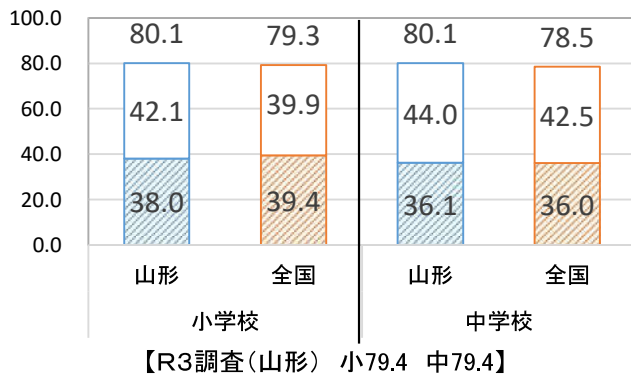


地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

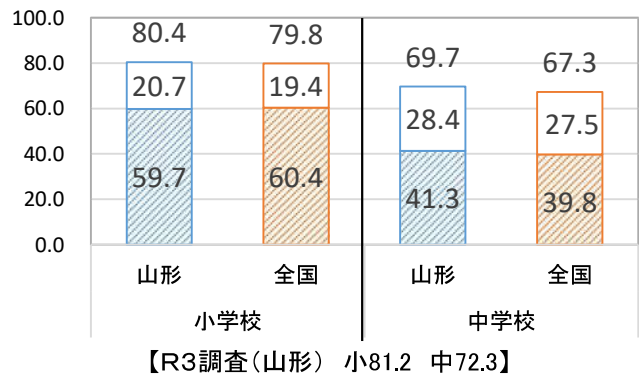


(5) 児童・生徒自身に関わること

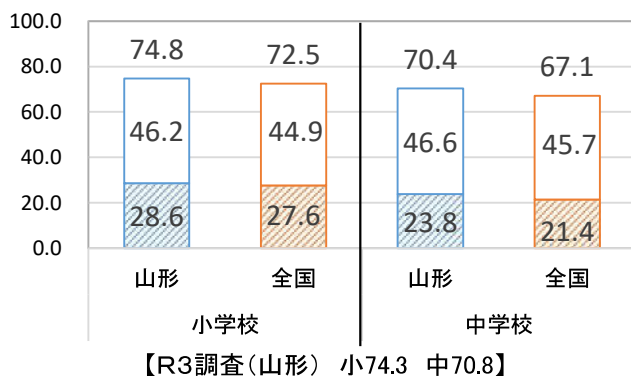
自分にはよいところがあると思う



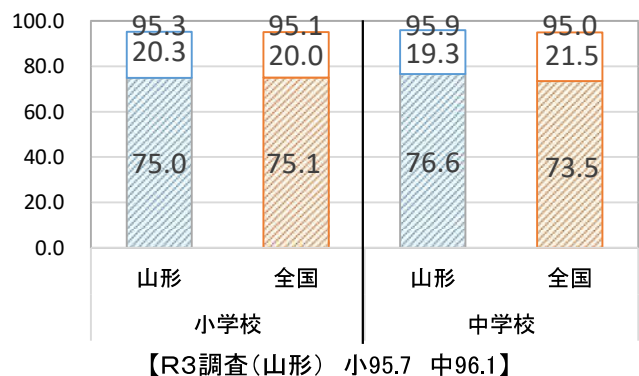
将来の夢や目標を持っている



難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する

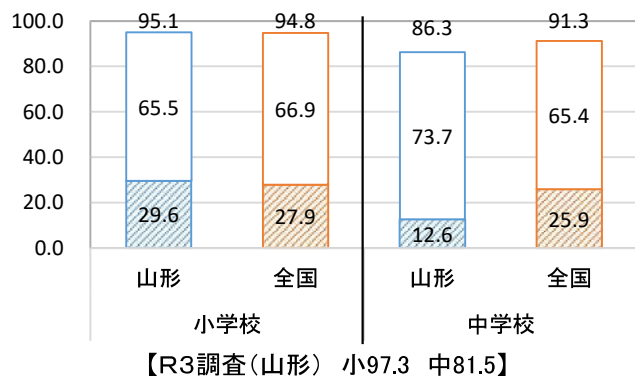


人の役に立つ人間になりたい

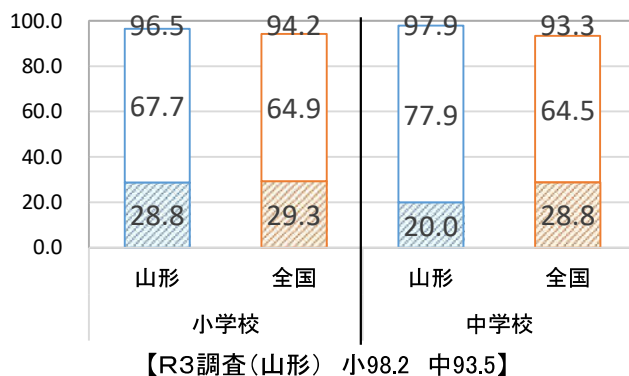


3 学校質問紙調査から

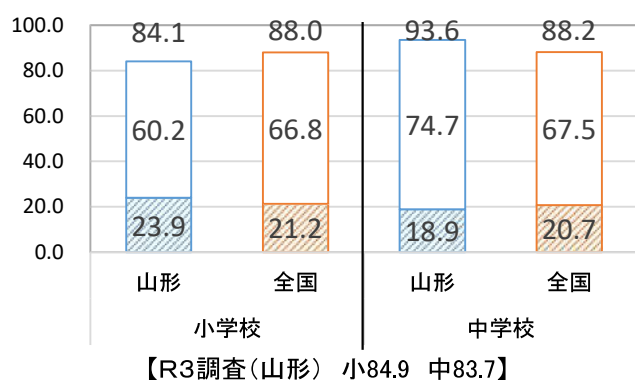
指導計画作成時の、横断的な視点での、教育内容の組織的な配列



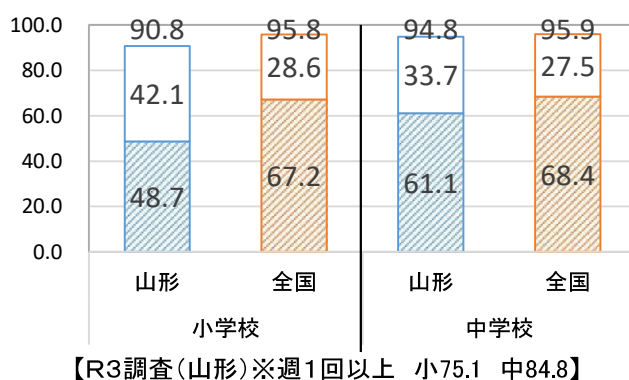
教育課程編成、実施、評価、改善のPDCAサイクルの確立



習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫



教員が大型提示装置などICT機器を活用した授業を、1クラスあたり週1回以上行った



3 県教育委員会のコメント

◆学力調査について

中学校では、全ての教科で全国平均正答率を上回りました。一方、小学校では、国語と理科で全国平均正答率と同程度でしたが、算数で全国平均正答率を下回る結果となりました。引き続き、学力向上の取組みを継続させながら、授業改善を図っていく必要があると考えます。

<国語> 小学校においては、基礎的な力は身に付いています。一方、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等を踏まえ、自分の考えをまとめることに課題が見られました。中学校においては、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書く力などが身に付いていますが、登場人物の心情の変化を捉えることなどに課題が見られました。

<算数・数学> 小学校においては、百分率で表された割合を分数で表す技能などが身に付いています。一方、コンピュータを用いて図形を作図する際に、図形の意味や性質を理解したり、構成の仕方について考察したりすることなどに課題が見られました。授業では、プログラミングに関する学習活動等を充実させる必要があると考えます。中学校においては、事柄が成り立つ理由について根拠を明確にして説明する力に改善が見られました。

<理科> 小中学校ともに、使用する器具の名称や使い方を答えたり、モデルを基に化学反応式で表したりする知識や技能が身に付いています。一方、小学校では、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して自分の考えをもつこと、中学校では、観測データを天気図と関連付けて、天気の変化を分析して解釈することに課題が見られました。

◆学習状況調査について

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各学校では一人一人のよさを生かしつつ、他者とのかかわりを大切にした話し合い活動の充実が図られており、児童生徒自身が学ぶことのよさや必要感を実感しながら学習している様子が窺えます。

<児童生徒質問紙より> 自尊感情や失敗を恐れず挑戦しようとする意識が高いこと、地域行事に参加する児童生徒も多く、地域と一体となり子どもを育てていることがわかります。授業では、友達と話し合う活動を通して自分の考えの深まりや広がりを実感している児童生徒が多くみられます。授業では、ICT機器を効果的と感じている児童生徒も多いことから、意見を交換したり、自分の考えをまとめて発表したりするなどの学習場面において、ICTを用いた学習活動を充実させる必要があると考えます。

<学校質問紙より> 「習得・活用・探究」のバランスのとれた授業づくりを意識しながら、指導方法の工夫・改善に努めている姿が窺えます。授業ではICT機器の活用により、教師と児童生徒、児童生徒同士のやりとりなども効果的に取り入れ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させていく必要があると考えます。

県教育委員会としましては、調査結果の詳細な分析により、児童生徒のつまずきやよさを明らかにし、「習得・活用・探究」のバランスのとれた授業の実践により、児童生徒の確かな学力の育成が図られるよう、各市町村教育委員会とともに取り組んでまいります。